2024年11月24日　説教「あなたの罪は赦された」

ルカの福音書5章17～26節

ルカの福音書の学び。先週に続き、5章から見ていきましょう。イエス初には、病人のいやしのわざが多くみられ、この記事その一つです。

１．中風の男を屋根からつり降ろし（17～19節）

①イエスは教え、病気を直し（17）**「ある日のこと、イエスが教えておられると、パリサイ人と律法の教師たちも、そこにすわっていた。彼らは、ガリラヤとユダヤのすべての村々や、エルサレムから来ていた。イエスは、主の御力をもって、病気を直しておられた。」**

場所はマルコの福音書をみると、ガリラヤ湖西のカペナウムという町です。イエスはいつものように教えておられました。その囲みにはパリサイ人と律法学者たちがいて、様子を注視していました。彼らは、ガリラヤ地方はもちろん、エルサレムやユダヤの村々からも来ていました。そういうなかで、イエスは教えをしつつ、病者に対する癒しのわざをしておられました。

②を中風の男を運ぶ男たち（18）**「するとそこに、男たちが、中風をわずらっている人を、床のままで運んできた。そして、何とかして家の中に運び込み、イエスの前に置こうとしていた。」**

そこに男たち（マルコ福音書では 4 人の男）が、やって来ました。彼らは中風患者を床のままで運んで来たのです。これはいわば担架です。中風とは、手足が不自由になる病気ですが、今から言えばおそらくは脳梗塞などによるものかもしれません。四人の男たちは、家の中にいるイエスの前に連れて行って直してもらおうとしていたのです。

③屋根の瓦をはがし（19）**「しかし、大ぜい人がいて、どうにも病人を運び込む方法が見つからないので、屋上に上って屋根の瓦をはがし、そこから彼の寝床を、ちょうど人々の真ん中のイエスの前に、つり降ろした。」**

しかし、問題はその家があまり大きくなく、そこにびっしり人々が集まっていることでした。玄関からも、窓からも入れそうにありません。そこで思いついたのが、屋根からでした。屋上に通ずる階段を用いて上り、ためらいもなく屋根の瓦をはがし、その床をつり降ろしたのです。友人たちの病者に対する援助は献身的でした。その床はイエスの話す前に降ろされました。当時の家は屋根が平らで、木の梁を渡し、梁と梁の間は土（モルタル）で固めた小枝でおおうという構造でした。ここではそれが瓦と記されています。

２．罪の赦しをされたイエス（20～22節）

①彼らの信仰をみて（20）**「彼らの信仰を見て、イエスは『友よ。あなたの罪は赦されました。』と言われた。」**

イエスは友人たちの信仰に注目されました。そして、この中風の男に向かって、『友よ。あなたの罪は赦されました』と宣言されました。普通は本人の罪の告白があってこそ、神は赦されるはずです（第一ヨハネ1:9、詩篇32:5 等）。なのに、友人たちの信仰のゆえに、病者の罪が赦されたのです。

②理屈をいうパリサイ人達（21）**「ところが、律法学者、パリサイ人たちは、理屈を言い始めた。『神をけがすことを言うこの人は、いった何者だ。神のほかに、誰が罪を赦すことができよう。』」**

ここで律法学者たちが抗議をします。キリストを主としない彼らの理屈はこうでした。ⅰ.その発言は神をけがしている。ⅱ.そんな発言をする彼は何者だ。ⅲ罪を赦すことができるのは神だけだ。この時とばかり、彼らはイエスを責めたてるのでありました。

③理屈を見抜くイエス（22）**「その理屈を見抜いておられたイエスは、彼らに言われた。『なぜ、心の中でそんな理屈を言っているのか。」**

しかし、イエスはその理屈を読み取っておられました。そして言われました。『なぜ、心の中でそんな理屈を言っているのか』。ということは、パリサイ人たちは、表だって発言していたのではなく、周りの者たちを扇動するがごとく、陰で批判的な言い方をしていたのです。

３．中風の男を癒された主（23～26 節）

①地上で罪を赦す権威を（23～24）**「『あなたの罪は赦された』と言うのと、『起きて歩け』と言うのと、どちらがやさしいか』人の子が地上で罪を赦す権威を持っていることを、あなたがたに悟らせるために」と言って、中風の人に、『あなたに命じる。起きなさい。寝床をたたんで、家に帰りなさい。』と言われた。」**

ここでのイエス・キリストの問いかけは一義的には律法学者やパリサイ人に対するものでした。つまり、律法学者たちは、この二つを並べて「どちらが易しいか」と問われれば、言葉の表面だけで『罪を赦された』とうい方が簡単だと答えたと思われます。律法学者達は旧約時代以来、大祭司を通して与えられる神からの罪の赦しこそに価値を置いていました。だから、イエス・キリストが「あなたの罪は赦された」という言葉を信用していなかったのです。しかし、イエスはその罪の赦しをする権威を証明されようとしていました。それは中風の人への「起きなさい。」というお言葉で、証明されるのです。実を言うと、ここで主はより難しい「罪の赦し」を宣言されたのです。

②床をたたんで（25）**「すると彼は、たちどころに人々の前で立ち上がり、寝ていた床をたたんで、神をあがめながら、自分の家に帰った。」**

病人は、その言葉を受けた後、すぐに人々の前で立ち上がり、寝床をたたみました。そして、内側まで一新させられたのです。彼は神を崇め始めました。これが主なる神のみわざだとわかったのです。これまで自分で歩くことがままならなかった彼が、自分の足で家に帰っていったのです。

③驚くべきことを見た（26）**「人々はみな、ひどく驚き、神をあがめ、恐れに満たされて、『私たちは、きょう、驚くべきことを見た』と言った。」**

この出来事をみて、そこにいた人々も大変驚きました。言葉だけではなかったのですから。彼らは神をあがめ、神へのおそれに満たされました。そして、周りの人たちに、『私達は驚くべきものを見た』と証ししたのでした。

《結論》今朝の聖書の学びから第一に学びですが、この中風の男がイエスの前に出てこられたのは、友人たちの協力があったという点です。それは、友情であり、隣人への熱い愛でありました。4 人と思われる男たちが床の病人を運んでイエスの所に連れていこうと思い立ったことがすごいです。そんな面倒なことをしても、どうせだめだと否定してかかっていれば、ことは始まりませんでした。また、誰かが思い立った時に、そこにいた他の者たちが賛同できたことも幸いでした。さらに、イエスが語る家の前まで来た時に、家の中は満員で、とても中に入ることができないと思われた時に、屋上から降ろそうという、諦めない心も用いられました。主イエスはこの男たちのこの行動をみて、それを彼らのうちの「信仰」としてくださいました。愛は積極的なものであることをここでも示されています。この隣人愛を見習いたいものです。

第二に中風の人の罪の意識についてです。病気はこの世にあって、人を苦しめるものです。病気のために、多くの人々が自由や喜びを奪われてきました。社会との関係を断たれ、家族からさえ疎まれることもあります。それゆえ、病人は苦しむと共に、恨んだり、怒ったり、失望落胆したりします。また、病人は、内なる罪が彼を襲って悩ますこともあります。因果応報的な考えはパレスチナにもあったのです（ヨハネ 9 章）。この中風の男も、それまで歩んできて、罪の意識に覚えながら歩んできたことでしょう。ですから、体がいやされることとともに、罪の問題に解決が与えられることが非常に大きな人生の問題であったのです。その男に罪の赦しの宣言が、主イエスによって与えられたのです。

第三に、一方的な罪の赦しについてです。この中風の男は、友人たちの愛に満ちた行動によってイエスの許に連れてきてもらいました。屋上からつり降ろされた時も、彼自身の言葉で罪の告白をしたわけではありません。第一ヨハネ 1 章 9 節には「もし、私たちが自分の罪を言い表すなら、神は真実で正しい方ですから、その罪を赦し、すべての悪から私たちをきよめてくださいます」とあります。この病者は、罪の意識はありましたが、それを告白まで至っていません。しかし、主は「あなたの罪は赦されました」と宣言してくださいました。それは友人たちの信仰が用いられたことは一つです。それとともに、床がつり降ろされてきて、その中風の男をご覧になった瞬間に、主イエスはこの男にとって、最も大切な「罪の赦し」という癒しをなしてくださったのです。体の癒しより前に、罪の赦しが必要であること覚えられて、すべての前提なしに、「友よ。あなたの罪は赦されました」とお伝えくださったのです。なんと喜ばしい一方的な恵みのお言葉だったことでしょう。彼は救われたのです。

讃美歌 271 の 4 節に「こころの痛手に、悩めるこの身を、イエスいやしたもう、み許にわれゆく」とあります。罪赦され、あまつさえ体までいやされたこの男は喜んで、神を賛美するしかありませんでした。私たちも、この一方的な主の御愛によって救われてきたものです。主を求めている者はこの主の前に出て罪の赦しをいただきましょう。また既に救われているクリスチャンも、救われた後にも罪を重ねてきました。主の前に額づき、罪の告白をし、「赦し」をいただいていきましょう。